

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471200291
法人名	株式会社パル
事業所名	グループホームゆめが丘
所在地	三重県伊賀市ゆめが丘4-2-1
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 30 日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2471200291-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 7 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「利用者様にとって何が一番いいのか？」(先も見据えて)を常に考え、家族様と相談しながら日ごろのケアにつなげている。
 ・会社代表者・管理者・リーダー・スタッフ、相互間のコミュニケーションが円滑にいくよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆめが丘」は、伊賀市の中西部にある住宅団地ゆめが丘の一角にあり、近隣にはクリニック、薬局、大型スーパー、ボリス、県や市の公共施設などが建てられていて生活感あふれる環境である。管理者・職員は、法人理念を軸に施設運営信条や職員信条を毎日出勤時に1項目づつ黙読し、利用者に寄り添った支援を目指している。職員の離職者が少ないことは理念の実践の証であると伺える。コロナ禍で家族との面会を制限される中、数種の面会方法を考え、利用者の笑顔が家族に届けられるように工夫している。毎月の「ゆめが丘たより」もその一つである。常に利用者や家族の事を思い現状に合わせた支援をしており、代表・管理者・職員のチームワークの良さと連絡・情報の共有を図り、明るく楽しい事業所作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	どの業務や取り組みも理念をベースに行うよう努めている。全職員が毎日の出勤時に理念を確認したり社内会議などでも意識づけできるよう、努めている。	会社の基本理念を中心に職員の信条などを毎日出勤時に1項目づつ黙読している。毎月の会議や何かあった時は理念に沿って確認し、日々の支援に努めるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民(近所)の方、民生委員の方、交番の方などとふれあい、定期的に地域の清掃活動にも参加している。	自治会に加入し地域の祭りやイベント・清掃活動など回覧板を通じ参加している。感染防止に充分配慮しながら散歩に出て、近隣の人達と挨拶をするなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方から、地域高齢者の支援について相談いただいたり、以前より少しづつではあるが、貢献させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見・ご提案を日ごろの業務に活かし、サービス向上に努めている。	以前は年6回開催していたが、コロナ禍で今年の2月まで中止とした。その間、行政・新旧の自治会長・民生委員・警察官・家族代表の参加者には事業所の活動報告を文章にして配布し、理解と意見を求め、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当者様と日ごろから、電話や庁舎へ出向いたり地域運営推進会議で話し、ご意見をいただいたり相談したりし、関係を築くよう努めている。	市・本庁舎が近い所に建設され便利になり、代表や管理者は電話や訪問で相談をしている。法律の解釈や運用、具体的な助成金などの申請についても助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化」の指針やマニュアルなどを作成し、職員全員で共有している。	事業所独自で作成した「指針」や「マニュアル」を基に年数回、社内研修している。「何が拘束に当るのか？」を常に意識しながら理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月毎に開催予定の身体拘束適正化委員会および身体拘束についての社内研修・社外研修の議事録が残されていないので、今後、行政の協力を得ながら取り組まれることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止対応規定」を作成し、職員全員で共有している。市役所発行の虐待防止に関する書面も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設け、話し合い、活用することは今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分に時間をとって、利用者様家族様へ内容の説明をし質疑応答し、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様のご意見は、介護日誌や連絡ノート、社内会議などで職員が共有し、運営推進会議でも報告し、運営に反映させている。	コロナ禍で家族との面会方法もリモート・メール・動画配信など家族の状況に合わせて決めている。毎月、利用者の写真入りで担当職員手書きのコメントを書いた「便り」を送り家族から大変喜ばれている。家族からの意見や要望を聞く機会は多く、聞いたことは運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろのコミュニケーションや個別面談、社内会議などにより、職員からの意見・提案を受け、最大限、運営に反映させている。	代表者が年2回、個別面談をしている。管理者は常日頃から職員の困りごとの相談に乗っている。また、自由に意見や提案が述べられる環境であり、常勤で長期在職の職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の適正化や給与水準アップへの取り組みと、介護の仕事の社会的重要性も伝え、やりがいを感じてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日ごろの実務を共に行ったり、自身や他のスタッフの良いところを職員で共有しながら、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近になり、同業者様との関わりが増えてきているが、コロナ禍であり勉強会や相互訪問はできていないが、状況をみて実施する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションから、今までの背景や今の気持ちをスタッフ間で共有しながら、安心につながる対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からご本人への思いを聴く機会を多く作り、要望を理解してスタッフ間での共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを出来るだけ伺った上で、今必要とされているケアを見出し、支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼ることや、共に行うことを意識しながら日々過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に変化があれば報告をし、ご家族に相談しながら対応を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということもあり、ドライブで馴染みの場所へ行ったりし、職員や利用者様同士で会話を楽しんでいただいている。	コロナ禍で家族との外出や馴染みの場所へは行けなくなったが、隣接のクリニックや理美容院が馴染みの人や場所となっている。また、利用者に応じて古い町並み映像のDVDを見て、回想法の支援となるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や作業中の手伝いなどの利用者様同士の関わりを見守りながら、必要な時に間に入って和やかに過ごしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の様子を伺ったり、時節のご挨拶で繋がりを継続し、必要な時はご家族を支援出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や居室での傾聴で、ご本人の本意を理解出来るよう努めている。	利用者と1対1になる入浴時・就寝時などに利用者に寄り添いながら本音を聞き取り、介護日誌を通じて全職員で共有し、アセスメント・ケアプランに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	後々ご本人の発言からわかることもあり、ご家族に詳しく伺うなど、より多く情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中で、お一人お一人と話しながら心身状態を、また、作品作りなどで可能な範囲の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをもとに、ご家族やかかりつけ医の考えを伺いながら、ご本人の想いに可能な範囲で寄り添えるような介護計画を作成している。	利用者の介護状況と本人・家族の意向も取り入れながら、介護日誌を基に介護支援専門員が介護計画を作成している。見直しは6か月毎にしているが状態に変化があれば随時の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、排せつ表、連絡帳への個別記録、会議での個別ケアの共有により、より深いケアの実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の出来る限りの範囲で多様なサービスを取り入れながら、利用者様の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議でボランティアの紹介を依頼している程度にとどまっているため、積極的に地域資源を活用しながら、利用者様が楽しみの多い生活を送られるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に隣接してかかりつけのクリニックがあることを説明し、体調変化がある時に早めの対応がしやすい事を、ご本人とご家族に理解を得て、なるべく転院していただいている。	全員が事業所に隣接しているクリニックを協力医とし、月2回の定期検診と体調不良時に職員が付き添って受診している。夜間緊急時にも同様で、常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が不在であるため、かかりつけ医に相談し、支持を仰ぎながら、安心して生活していただけるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院時も不安なく過ごしていただけるよう、医療機関への情報提供やご家族と連絡を取り、スムーズな治療から退院につながるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族様の意向を伺いつつ事業所の方針を説明し理解を得て、重度化した場合は、横の繋がりがりから早めの対応をご家族と共に考えている。	入居時に看取りはしない方針であることを家族に説明し、利用者が介護3になった時点で各関係者と今後の方針について話し合い、同一法人内の事業所が他施設への紹介などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練し、緊急時対応のマニュアルを活用し、当日の役割分担も決めて職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様が円滑に避難できるよう訓練を通して身につけているが、地域との協力体制は今後の課題である。	地域との防災訓練は中止しているが、事業所独自で地震・火災を想定した避難訓練を消防署に通報して実施している。今後は消防署の立ち合いで避難誘導、その他不足部分を指導してもらおう予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の尊厳とその方らしさを尊重した声掛けを心掛けるよう共有し、全体会議で確認しあっている。	管理者・職員は居室に入る前にはノックや声掛けなどの配慮をするなど、毎月のケア会議・全体会議で確認している。職員には入社時に理念に沿ってプライバシー保護の研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを吐露していただきやすい問い方や場面で本意を伺えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のリズムを作る為食事は決まった時間に声掛けしているが、その日の過ごし方は、提案したり希望を伺いながらご本人のペースを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見ながら整容していただいたり、着る服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食べやすさに気を付けて盛り付けの工夫をしたり、コロナ禍の中、可能な範囲で、旬の野菜の下準備に携わっていただいたものを召し上がっていただいている。	毎食とも御飯と汁物は事業所で作り、それ以外は委託業者よりメニューで調理されたおかずを温めて提供している。旬の野菜を頂き職員が調理しおかずの1品となる時もある。誕生日には希望を聞いて食べる楽しみを味わってもらう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の以前の様子を把握した上で、希望を伺いながら、全量摂取していただけるよう提供し、水分摂取チェックも注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導と見守り、定期的には義歯の消毒、希望者に訪問歯科受診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を共有し、必要であれば紙パンツやパットを使用していただき、お一人お一人のリズムで声掛けを行い、汚染を防げるよう支援している。	現在、半数の利用者が布パンツで他はリハビリパンツとパットの対応で、トイレでの排泄を支援している。居室からトイレの設置場所が遠く、夜間のみ転倒防止も含めてポータブルトイレを8名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防としてオリゴ糖入りのバナナヨーグルト、オリーブオイル入りの納豆の提供を実施しており、特に無排便3日目から排泄チェック表での共有で注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所として決まった入浴日と時間の中で、入浴希望を伺いながら、安心して気持ち良く入浴していただけるよう対応している。	週3回午前中入浴を基本としているが、利用者の体調に応じて回数を決めている。季節の入浴剤を入れ職員と対話しながら、のんびりと温泉気分を味わってもらう工夫をしている。対話内容によっては、その後の支援に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活リズムを基本として、その時々状況を観察しながら、環境を整えて臥床の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった時は、特に、用法や用量、副作用など共有し、体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などから得た情報を共有し、ドライブや刺繍、編み物など、出来るだけ楽しみや日常の張り合いを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の上、可能な範囲で、季節の花を見に外出したり、近所を散歩していただいている。	コロナ禍以前のように外出は出来ないが、数人ずつ季節の花を見に車窓ドライブをしている。また、事業所周辺の散歩や敷地内での外気浴で、利用者の気分転換・ストレス発散となるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の規則として、金銭は持たないとしているが、ご家族の要望がある場合、ご本人が手元に持つことで不安が解消できる場合は、受け入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族から要望があれば、ビデオ電話していただいたり、イベント等の折に事業所から勧めて会話していただくように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月交換する共同作品の壁画の他、季節感のある塗り絵や、スタッフが育てた生花を見ながらリラックスして過ごしていただけるよう工夫しており、トイレ前の仕切りカーテンで排泄への配慮をしている。	対面式のキッチンから広いリビング全体に目が届き、壁には季節を感じる利用者の手作り品が貼られている。また歌の歌詞があちらこちらに貼られ、利用者に自由に口ずさんでもらえる工夫をしている。トイレ前には仕切りカーテンをし、利用者の席から見えない工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ふと座っていただけるよう、ソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持参していただくようご家族にご協力いただいたり、興味の持たれているもので壁を飾り、居室が明るく、居心地良くなるよう工夫している。	居室のエアコン・押し入れ以外は全て利用者が使い慣れた家具など家族の協力を得て持ち込まれ、安心して暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活を過ごしていただけるように、その方に必要な声掛けや介助を実施し、安全確保の為にセンサー対応も行っている。		